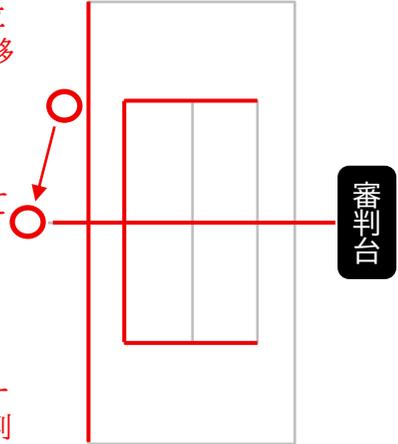
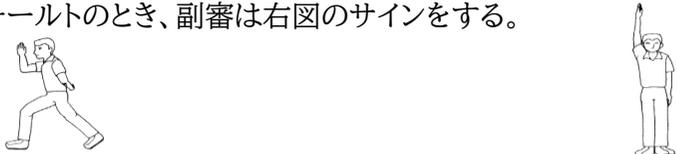


【審判講習会 事前課題】

各務原市ソフトテニス連盟中学部会

※全国中学生ソフトテニス大会「服装・用具等の規定」・「競技上の注意」に記載に基づく

No.	○×	問 題
大会に出場するときの用具・服装について		
1	○	日本ソフトテニス連盟が公認したラケットやウェアを使用しなければならない。ただし、学校指定の体操服は可となっている。
2	×	靴下はくるぶしが見えてはいけない。靴下の規定はなくなった。ハイソックスでもいい。
3	○	靴はテニスシューズでないといけない。コーチも同様。体育館の場合は室内用シューズ。
4	○	マジックなどで体に文字や絵を書いてはいけない。
5	○	手首、足首に時計・ミサンガなどをつけてはいけない。選手の腕などへのペイント・文字の書き込み、磁気ネックレス、装飾品(ミサンガなど)、腕時計の使用は禁止する。
6	○	ユニフォームからはみ出るアンダーウェアを着てもいい。サポーター・テーピング、アンダーシャツやアンダータイツ等の使用や着用を認めることとなった。ただしステッチも含めて単色とする。
7	×	ボールは使用するコートで、1.5mの高さから力を加えずに落下させたときに、ボールの上の端が70cm～80cmバウンドするように空気調整をする。ボールの下の端
採点票 ジャッジペーパーとはいわない		
8	○	試合前に採点票の名前と選手のゼッケンの確認をする。
9	×	採点票の名前は、前衛を上、後衛を下に書かないといけない。どちらでもよい。
10	×	採点票には得点したチームに○を書いて、×は書かない。各ポイントに○×両方書く。
11	○	採点票に審判の名前と学校名を忘れずに書く。
12	○	正審は勝者(団体戦の場合は監督かキャプテン)に「勝者サイン」欄にサインをしてもらう。
審判の進め方		
13	×	審判には「主審」と「副審」があり、必ず2人だけで行う。
14		<p>右の図に副審の立つ位置に○印、判定するラインをすべて赤色で書いてください。立つ位置が途中で変わる場合はすべて書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 副審はサービスの時はサービスラインの延長上に立ち、その後プレーが続けば走ってボールのところへ移動する。 副審は判定区分以外のラインのサインをしてはいけない。 (副審がベースラインを越えたアウトボールに手を挙げてはいけない。) 副審はネットへのフォールトはサインをしない。なお、正審はネットへのフォールトの時も「フォールト」と必ずコールする。 ネットに関するコール(レット・ネットタッチ・ネットオーバー)は正審・副審の両方がコールする。その他の判定も同様。 

15	○	「トス」とは試合を始める前に行う、サービス・レシーブおよびサイドを決めるもので、トスによって先取権を得たペアは、第1ゲームのサービスかレシーブ、もしくはサイドを選択することができる。
16	○	「トス」で先取権を得たペアがサービスかレシーブを選択した場合、他方のペアはサイドを選択することができる。
17	×	試合前の練習が認められている場合、練習を終え試合を始めるとき「レッツプレー」とコールする。「レディ」が正しい。
18	○	試合が始まる時「サービスサイド○○中学校○○・○○ペア、レシーブサイド□□中学校□□・□□ペア 5ゲームマッチ プレーボール」とコールする。
19	○	サービスでボールがラケットから離れるまでにベースラインに触れた場合、「フットフォールト」とコールし、サーバーの失点となる。
20	×	副審の判定するラインがフォールトのとき、副審は右図のサインをする。  図は「アウト」のサイン。 「フォールト」のサインは→
21	○	副審がベースラインを越えた「アウト」に手を挙げてはいけない。
22	×	サービスが入ったとき、副審は「イン」のサインをする。「イン」のサインはしてはいけない
23	×	正審はネットへのフォールトの時は「フォールト」とコールしなくてよい。 コールする。
24	×	副審はサービスラインの延長上にいればいい。 レシーブの後は速やかにボールへ移動する。
25	×	正審がコールしないうちにサービスが行われたら、ノーカウントとなる。「レット」とコール
26	×	第1サービスがフォールトになり、正審のコールやレシーバーの準備ができていない状態で第2サービスが行われた場合は、ノーカウントになる。「レット」とコールし、 第2サービスをやり直す。
27	×	ボールにバックスピがかかり、触っていないのに相手コートに戻った場合、ノーカウントとなる。 相手のポイントとなる。
28	×	打球が落ちているボールに当たり返球できなかった場合、ノーカウントになる。 相手のポイントとなる。ボールに当たっても打ち返さないといけない。
29	○	チェンジサイズのとくと、ファイナルゲームの前のみ、ベンチでコーチングを受けることができる。

ミスジャッジなどの対処		
30	○	<p>ペアでの相談の時間が長く、なかなかプレーに入ろうとしない場合や、ベンチコーチの話が1分を過ぎた場合、「レッツプレー」とコールする。</p> <p>チェンジサイズ時やファイナルゲーム前は、前のゲーム終了時のコールから1分以内に次のゲームの準備をすることになっている。</p> <p>副審は40秒でホイッスルを鳴らす。60秒で2度目のホイッスルと正審は「レッツプレー」をコールする。</p> <p>ヒートルール適応の場合、ファイナルゲーム前は、前のゲーム終了のコールから3分以内に次のゲームの準備ができるようにすること。2分40秒でホイッスル。3分で2度目のホイッスルと「レッツプレー」のコール。</p> <p>2度目のホイッスルと「レッツプレー」で、移動するそぶりがなければ「警告」の対象とする。</p>
31	×	<p>正審が「アウト」とコールしたが、インだと思った。その場合、異議申し立てができる。(異議申し立てとは「今の入ってますよね」など)異議申し立ては禁止。した場合は「警告」の対象とする。</p>
32	○	<p>異議申し立てはできないが、質問はできる。(「インですか?」など)</p>
33	○	<p>1つのプレーについて1回質問があり、そのあと判定が変わってとき、もう一方のプレーヤーが再度質問を行うことはできない。</p>
34	×	<p>質問で「この跡ではないですか?」とボールの跡を示すことができる。やった時点で「警告」とする。</p>
35	○	<p>ボールの跡を故意に消した場合は「インターフェア」で失点となる。悪質な場合は「警告」にもなる。</p>
36	×	<p>サービスの順番が誤っていることをインプレー中に気がついた場合、プレーを中断してサービスからやり直す。プレーは中断しないこと。そのプレーは有効となり、次のポイントから正しい順序に訂正して、ゲームを続ける。</p>
37	○	<p>サービスの順番の誤りが第1サービスのフォールトの後に発見された場合は、その時点で正しい順序に訂正し、第1サービスから行う。レットの扱いになる。</p>
38	○	<p>ポイントカウント、ゲームカウントのコールが誤っていた場合、インプレー中に気がついたとしても、プレーを中断しない。そのプレーは有効となり、次のポイントから正しいポイントに訂正する。</p>